

第 46 回宇都宮市民芸術祭 日本画部門 審査総評

2025 年 第 46 回宇都宮市民芸術祭 日本画部門には、11 点の応募がありました。昨年引き続き、作品の題材・表現に幅があり、全ての作品が入選となりました。

市民芸術祭賞を受賞されたレイ コウさんの「誰かのぬくもり」は、盛り上げ技法や画面を削って模様を表現するなどの工夫がなされ、日本画の色料の特性を活かした複雑な画面となっています。やわらかな色彩がぬくもりを感じさせ、額装にまで作者の意図が見受けられた力作でした。

準市民芸術祭賞を受賞されたコウ タククンさんの「逆さまの猫」は、具象と抽象を組み合わせた、鑑賞者にいろいろと想像させる作品です。暗い中には多くの魚と水の流れが粗い粒子を活かして描かれ、対照的な水紋は擦り出しを施し、こちらも技法の組み合わせで描かれています。

奨励賞には、4 点の作品が選ばれました。前田 廣子さんの「秋の菊」は、揉み紙に砂子を撒いた繊細な背景に大輪の菊が美しい作品です。木下 大輝さんの「ひとやすみ」も揉み紙の技法が用いられており、草の香りたつような空気感が表現されています。大島 知子さんの「初秋の沼」は、構図と配色を工夫し、水面の動きを上手く表現しています。枝村 慎哉さんの「二荒山永代太々神楽より岩戸の舞」は、薄い和紙や粗い絵具を使った意欲作でした。

秀作には、花の表現を工夫した、ム シンさんの「夢中」が選ばれました。

2024 年度より、より多くの人に日本画の魅力を楽しんでいただけるように「色紙部門」を新たに開設。本年度は日本画を知るワークショップも開催しました。皆さまの自由な発想で新たな日本画の世界を切り開いていただけることを期待しております。一方で、近年、水墨画のご出品が減少傾向にあります。墨の濃淡で無限の表情を生み出す水墨画は、日本画の重要な表現方法の一つです。この素晴らしい伝統が次世代へ継承されていくためにも、皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

来年度も、皆様の素晴らしい作品と出会えることを心より楽しみにしております。今後とも市民芸術祭日本画部門へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

審査長 阿良山 早苗